

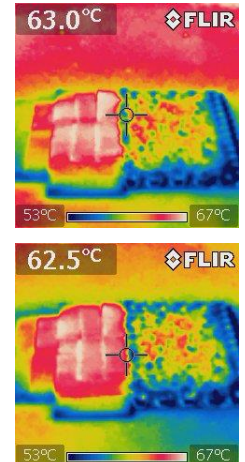
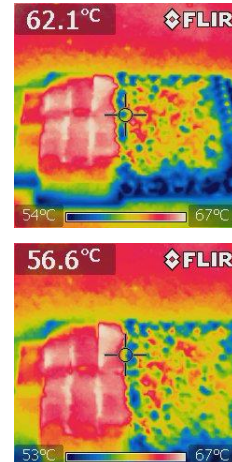
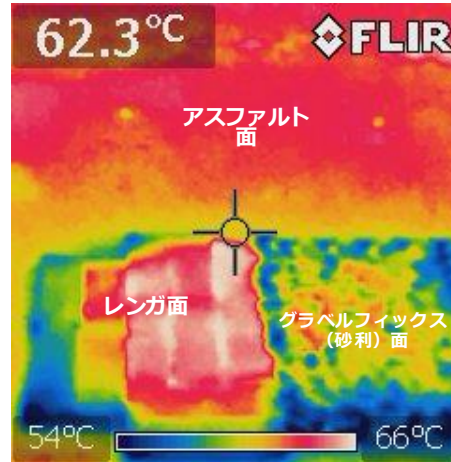
- 検証内容：倉庫屋外（アスファルト路面）にて、レンガ、グラベルフィックス（+砂利充填）を設置、

1時間程度そのまま放置し、その後サーモグラフによって測定。※グラベルフィックスの端部分は砂利を充填していない

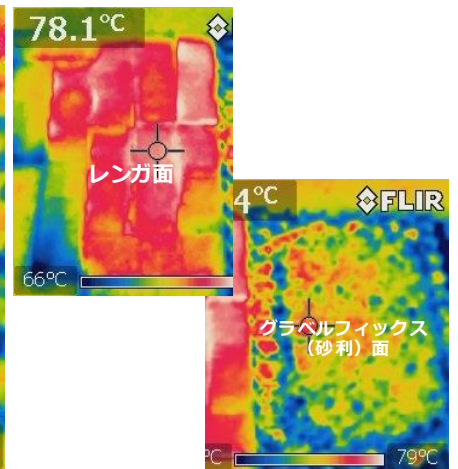
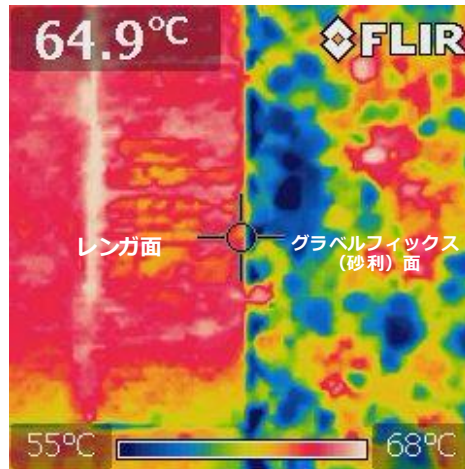


- 日時：2025.08.12
AM11時～PM13時頃
 - 場所：石狩市弊社倉庫にて
 - 天気：晴れ
 - 気温：29℃
 - 砂利：砕石6号（5～15mm程度）
- ※オーストラリア産レンガ
グラベルフィックス ライト（カット）を使用

- 検証結果①：下記は、アスファルト面、レンガ面、グラベルフィックス（砂利）面のサーモグラフの温度分布。
アスファルト面、レンガ面が共に、グラベルフィックス（+砂利）赤く温度が高くなっている事が分かります。



- 検証結果②：下記は、レンガ部分、グラベルフィックス（砂利）を拡大した写真／サーモグラフです。
レンガ面は全体が赤く（温度が全体的に高い）グラベルフィックス（砂利）面は太陽光を乱反射（温度がまちまち）しています。



- 検証結果より、グラベルフィックス（砂利）を使う事によって、アスファルト面、レンガ面（インターロッキング）よりも太陽光を乱反射することにより、ヒートアイランド防止につながる事が検証されております。